

三木市記者発表資料 (令和5年12月26日発表)			
担当部課名	担当長	担当係	電話番号
総合政策部 秘書広報課	課長 正心均 (内線 2410)	広報広聴係	0794-82-2000 (内線 2308)

タイトル
2023年(令和5年)10大ニュースを選定 ～ 市政を中心として ～
本件のポイント
<ul style="list-style-type: none">・2023(令和5)年は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、4年ぶりのイベントなどが続々と復活し、まちに活気が戻ってきました。・これからも未来へとつなぐ持続可能なまちづくりを推進し、「誇りを持って暮らせるまち三木」の実現をめざします。
説明文
<p>年末にあたり2023(令和5)年の10大ニュースを選定し、市民の皆さまとともに進めてきたまちづくりを振り返ります。(時系列順)</p> <p>1 常設金物鷲が道の駅みきに誕生(3月) ～三木金物のシンボル～ 今まで金物まつりの開催期間でしか目にする機会がありませんでしたが、どこにも負けない三木金物をより広くアピールするための起爆剤として、三木金物商工協同組合連合会が常設型の金物鷲を道の駅みきに設置しました。 三木金物 約6,000点を使用し、幅4.5m、高さ2.4m、重さ約2.5tというスケールで製作され、3月10日に完成セレモニーが開催されました。</p> <p>2 県内初 三木城下町地区を景観形成重点区域に県が指定(3月) ～伝統意匠を有する特徴的な景観を積極的に保全し次世代へ継承します～ 「三木市三木城下町地区歴史的景観形成地区」のうち、特に優れた景観が残る黒田清右衛門商店(景観形成重要建造物)などの伝統的な町家が建ち並ぶ区域を、「景観形成重点区域」として県が指定しました。</p> <p>3 東播磨道が八幡三木ランプまで部分開通(3月) ～加古川方面へのアクセスがより便利に～ 3月21日に県が整備を進めている東播磨道北工区のうち、八幡稲美ランプから八幡三木ランプまでの2.5kmの区間が部分開通し、開通記念式典及びウォーキングイベントが開催されました。八幡三木ランプは東播磨道の三木市の玄関口として、加古川方面への利便性向上とともに、アクセス時間の短縮による物流円滑化・地域活性化が期待されます。</p> <p>4 三木スケートボードパークをリニューアル(4月) ～初心者にも利用しやすいストリート系のセクションが新たに追加～</p>

東京オリンピックで日本人選手の活躍を機に利用者が増加し、あわせて未整備区間の整備要望があった、三木スケートボードパークのリニューアル工事を行いました。

リニューアル工事完成を記念し、ネッツトヨタ神戸㈱と協力しクラウドファンディングによる資金調達も行き、国内で活躍しているスケートボードのトップ選手を招待してイベントを実施しました。イベント当日は大勢の方にお越しいただき、大成功で終わることができました。

5 三木工場公園内の自転車レーンが全区間で供用開始（5月）

～みんなにやさしい自転車レーンの整備～

三木工場公園内の幹線道路（市道花尻城山線）において市内で初となる自転車専用通行帯（自転車レーン）を整備し、全区間（約2km）で供用開始しました。車も自転車も歩行者もその他道路を通るすべての人が、より安全に快適に通行できるようになりました。

6 イベント復活！アフターコロナ（5月）

～コロナ禍を乗り越えて4年ぶりににぎわいへ～

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、中止が続いていたイベントなども4年ぶりに復活して、まちににぎわいの場が戻ってきました。5月5日の「別所公春まつり」を地域とともに開催したほか、7月29日の「みっきい夏まつり」は市内外から多くの方が花火を楽しみ、11月4・5日の「三木金物まつり」は本来の規模で開催し約12万人の来場がありました。

7 三木市がSDGs未来都市に選定（5月）

～100年後も誇りを持って暮らせるまち三木をめざして～

市が提案するSDGsの達成に向けた取組計画「100年後も誇りを持って暮らせるまち三木」が優れたものとして認められ、5月22日に内閣府から「SDGs未来都市」に選定されました。

SDGs未来都市として、「誰一人取り残さない社会」という観点のもと、子どもから高齢者まですべての市民が、将来にわたって自分たちの希望する暮らしや活動を営むことができるよう、チーム三木が一丸となって「誇りを持って暮らせるまち三木」の実現をめざします。

8 施設一体型小中一貫校の設置に向けて（5月）

～三木市がめざす小中一貫教育～

1月に小中一貫教育推進協議会からの意見書受領を経て、5月の総合教育会議で吉川地域に施設一体型小中一貫校の設置方針が決定されました。現在、新しい学校の在り方について協議する地域協議会を通して、意見交換を始めています。

9 中央公民館等複合化に関する商工会議所との協定締結（10月）

～協力体制を構築し円滑に事業を推進～

市が令和4年8月に「中央公民館等複合施設基本構想」を策定した後、同年10月に三木商工会議所が本事業に参画表明されました。

令和5年6月には同会議所において複合施設との合築、区分所有を正式決定されたことにより、基本計画の策定に着手することとなり、三木市と三

木商工会議所との間で、本事業において協力体制を構築し円滑に事業を推進するため、協定を締結しました。

10 旧中吉川小学校賃貸借契約を締結（10月）
～三木市初！民間活用による廃校利活用～

旧中吉川小学校の民間事業者による廃校利活用に向けて、物品販売等併設の体験学習型複合施設として活用する提案をした釣り具メーカーの株式会社ハヤブサと賃貸借契約を締結しました。

本案件は次の SDGs 目標に関連します。

